

大雪山の火山活動解説資料（平成26年9月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
平成19年12月1日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①、図3・4）

旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上200m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

9日に実施した現地調査では、旭岳地獄谷爆裂火口の複数の噴気孔で、噴気温度が 100°C 以上の高温状態が継続していました。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

- 1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

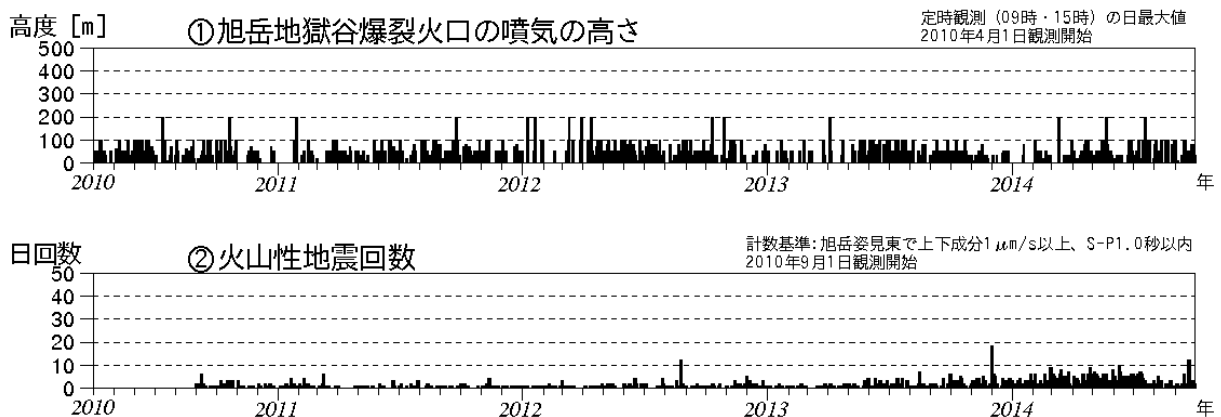


図1 大雪山 火山活動経過図（2010年4月～2014年9月）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。

次回の火山活動解説資料（平成26年10月分）は平成26年11月11日に発表する予定です。

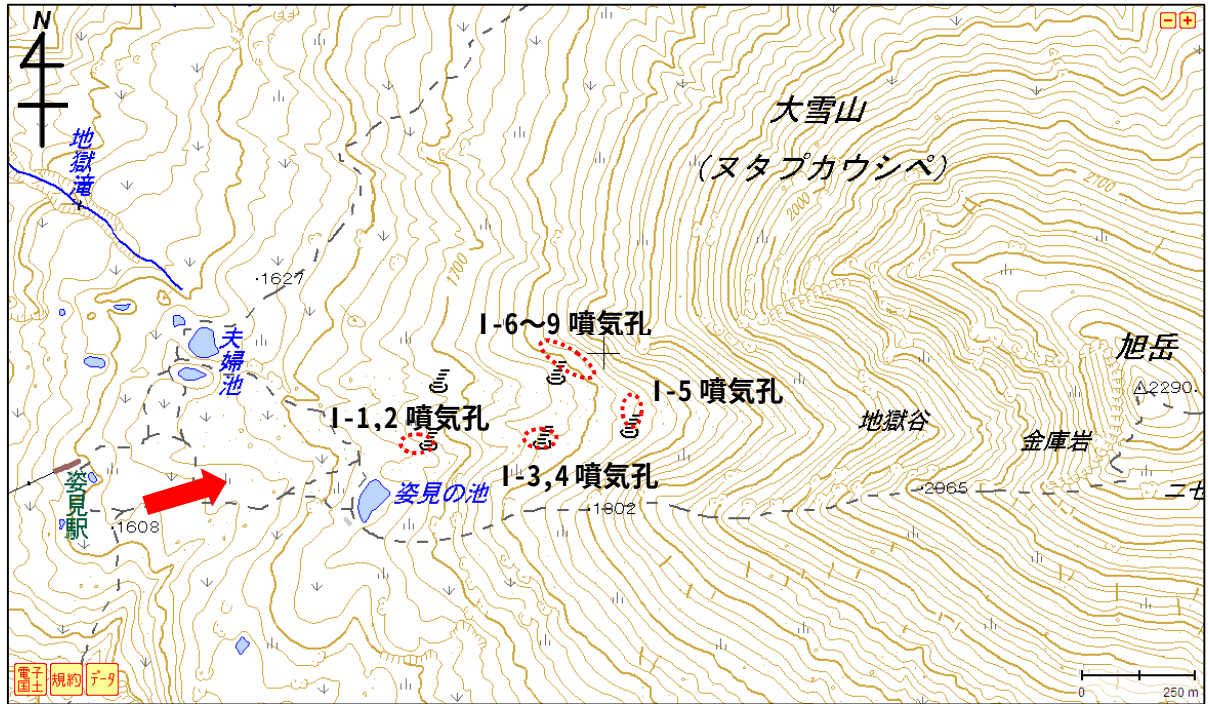


図2 大雪山 噴気孔の位置（破線囲み）および写真の撮影方向

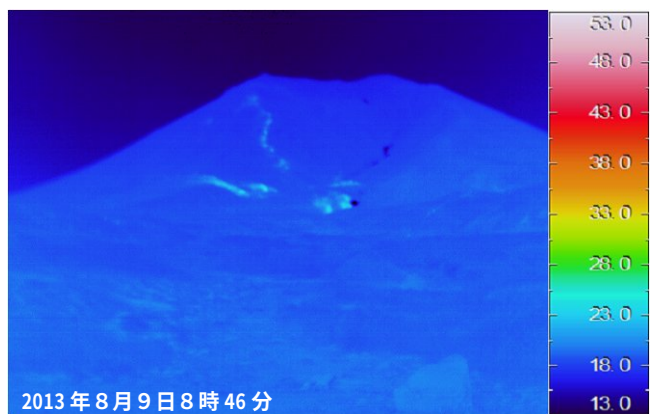
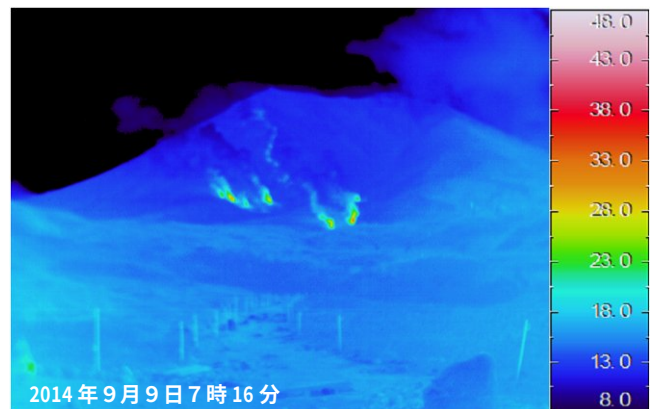


図3 大雪山 赤外熱映像装置による旭岳地獄谷爆裂火口の地表面温度分布
東側（図2の矢印方向）から撮影



図4 大雪山 西側から見た旭岳の状況（9月27日、^{ちゅうべつこひがし}忠別湖東遠望カメラによる）

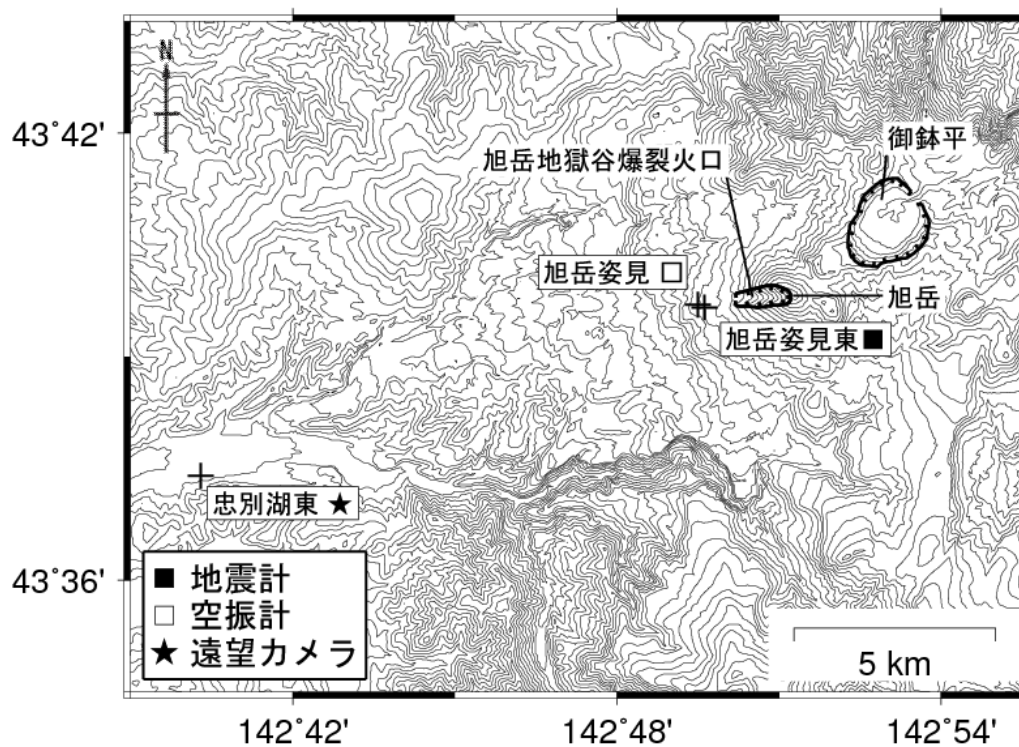


図5 大雪山 観測点配置図
+印は観測点の位置を示します